

## 2025 年度自己評価及び学校関係者評価シート

2025 年 3 月  
認定こども園桑園幼稚園

### 1. 園の教育目標

ともに育ち、ともに生きる

### 2. 2025年度の年主題

ともに

### 3. 2025年度の重点目標・計画

- ・キリスト教保育を改めて学び、一人ひとりの子どもの心と育ちに寄り添った保育のあり方を学ぶ。
- ・職員会議のあり方を考え、保育者間の意思疎通や共有、連携をより深めていく。
- ・保育についての園内研修を行い、保育の質向上に努める
- ・乳児から幼児の子どもの育ちを踏まえた保育をともに考え実践していく。
- ・園児の安心安全な生活を守る。

### 4. 評価項目の達成および取り組み状況

区分	評価	振り返りと課題	学校評価委員の評価
1 保育の 計画性	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教保育への理解がまだ足りないと感じているので、そこを深めながら保育計画を作成できるようにしたい。</li> <li>・子ども理解をより深め、様々な姿を予想しながら保育計画を立てられるようにしたい。</li> <li>・子どもたちが自ら活動を生み出せるような環境構成にもう少し配慮や工夫ができたのではないかと思う。</li> <li>・子どもの姿を思いながら保育計画を立てているが、保育者主導の活動展開になってしまったのではないかと感じることもあった。</li> <li>・キリスト教保育の温かさや子どもの姿に合わせた柔軟性などを他の保育者と共有して計画を立てていきたいと考える。</li> </ul>	B
2 保育の あり方・ 園児へ の対応	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする園児が増えてきてクラスを越えて園全体での対応が必要なため、毎日の打ち合わせや朝の祈りの後に子どもの状況や保護者の思いを共有するようにした。</li> <li>・子どもたちに寄り添った関わりを意識して行うことができた。</li> <li>・保育者に余裕がなくなると自分の焦りが言葉として子どもに伝わってしまうことがあったので気をつけたい。</li> <li>・気を配っていたつもりでもケガが起きてしまい、整理整頓や配慮の甘かった部分もあったと感じる。</li> <li>・子どもの姿、気持ちに寄り添った保育を心がけているが、トラブルの際に適切な対応を取ることが不十分であった。</li> </ul>	A
3 教師と しての 資質・能 力・良 識・適性	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの役割、担任クラスのこと以外についても、自分のできることは協力できるよう心掛けた。</li> <li>・自分に余裕がなく他の保育者のフォローや全体の仕事が十分に行えなかったと感じる。</li> <li>・担当しているクラスのことには重きを置きすぎて、他のクラスへの関心が薄くなったり、関わりや働きに偏りが起きやすいように思ったので、保育者全員で全園児を保育するという意識を徹底したいと思った。</li> <li>・園児について必要なことを他の保育者に速やかに共有することができなかつたため、報、連、相を忘れないようにする。</li> <li>・個人情報の取り扱いや身だしなみ等はしっかり意識して過ごすこ</li> </ul>	A

		<p>とができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し主体的に動けるようになりたいと強く思う。</li> <li>・乳児クラスは全体打ち合わせに参加する機会が少なく、保育者間の連携不足になってしまうことがあった。</li> </ul>	
4 保 護 者 へ の 対 応	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が話しやすい雰囲気を作り、保護者の思いを聞いて一緒に考え思いを合わせられるように努めた。</li> <li>・保護者と話すときに緊張したり、まとまらなくなることもあるので整理して落ち着いて話せるようにしたい。</li> <li>・保護者のお迎えの時間の関係で、なかなか会えず関わりが少なくなってしまうことがあるが、口頭だけでなく手紙や連絡帳などでコンタクトを取れるよう努力した。</li> <li>・ブログの更新が少なくなり保護者に子どもの様子を伝える機会が減ってしまった。</li> <li>・保護者にあいまいなことを言わないように気を付けている</li> </ul>	A
5 連 携 や 地 域 と の 関 わ り	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小研修に参加し、小学校との連携を大切にしている。</li> <li>・地域の幼保小連携が活発になっているので、今後も地域の様々な機関と連携できればと思う。</li> <li>・たんぼぼ広場は例年10月以降(1号募集後)参加者が少なくなってしまうのが課題と感じる。</li> <li>・たんぼぼ広場は地域に対して大切に働きとして受け止め関わってきた。</li> <li>・地域開放や子育て支援についてしっかりと考えていきたい。</li> <li>・たんぼぼ広場や子育て相談などについてもっと地域にアピールしていきたい。</li> </ul>	A
6 研 修 と 研 究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学びを深めるために積極的に研修に参加した。</li> <li>・たくさんの研修を受け、自分の保育を見直したり新たな考えを得たりすることができた。</li> <li>・新たな知識や考え方を身に付けることに喜びをもって研修に参加した。</li> <li>・研修を自分の学びや保育に生かすことができたが、職員間での共有が不足していたと感じるので学んだことを参加できなかった保育者にも伝え、園全体の保育の力と質を向上させていきたい。</li> <li>・認定こども園となり、幅広い年齢、様々な家庭環境の子どもを受け入れるにあたってより高い専門性が必要と強く感じるので、多方面に学びを深めたい。</li> <li>・私保連の公開保育を行い、自分たち保育を振り返るとともに様々なご意見をいただく良い学びの時となった。</li> </ul>	A
7 食 に 関 す る こ と	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厨房職員と保育者が連携を取り、給食会議以外でもこまめに子どもたちの様子や残菜の状況を確認しながら、おいしく食べやすい給食についてともに考えあうことができた。</li> <li>・札幌市の献立をベースに、子どもたちが喜ぶメニューを栄養士が作成し、楽しいおいしい給食の時間となってきている。特に9月から平日に麺が出るようになり、子どもたちにも好評である。</li> <li>・給食の提供の仕方を工夫し、子どもたちが少しでも食べられた、食べてみたらおいしかった、という思いを持てるようにした。</li> <li>・栄養士、調理員が「喜ばれる給食」を大切に、子どもたちの育ちを食で支えるという思いをもって給食業務に取り組んでいる。</li> <li>・誤嚥、窒息防止について保育者、調理員がそれぞれの立場で理解し、引き続き事故防止に努めていく。</li> <li>・食育について栄養士が対面で子どもにお話しする機会を次年度以降作っていきたい。</li> </ul>	A

## 5. その他の事項

- ・保護者からの苦情要望申立てが1件あり、子どもたちが安心安全に園生活を送ることができるよう、保育の見直しや再確認を行った。

## 6 財務、経営状況

- ・公認会計士監査、監事監査により、適正に運営されていると認められている。
- ・物価高騰による影響が様々ところで出始めているので、新年度の経営についても必要なことには予算を確保しつつ園の経営を行っていきたい。

## 7. 安全管理

- ・防火管理者、衛生管理者を置き、管理を行っている。
- ・2025年度も救命救急講習を保育教諭全員が受講した。
- ・警備会社による防犯セキュリティシステム、防犯カメラを設置し安全に努めている。施錠解錠の際確認を怠らないよう再度職員間で共有を行った。
- ・年2回の自衛消防訓練と北海道シェイクアウトによる地震の訓練、浸水避難訓練を行った。
- ・学校薬剤師による環境検査も行き、指摘事項なし。
- ・現金やマイナンバーなども、厳重に管理している。

## 8. 新年度の課題

- ・キリスト教保育について指針やキ保誌を用いてより深く学び、保育の土台を強固なものにしていく。
- ・桑園幼稚園がこれまで大切にしてきた思いを共有し、一人ひとりが大切にされる保育を実践していく。
- ・園児の安心安全な生活を守る。
- ・新任保育者（1～2年）の保育を支え育てるための園内研修の充実。
- ・子育て支援活動の充実を図る。

## 9. 学校評価委員会からのコメントと助言

- ・日頃から真摯に子どもと向き合っていることが「振り返りと課題」によく表れています。保育者間の情報共有は、単に子どもの情報を得るということだけでなく個々の保育者の保育観や子ども理解を交流できると考えます。このことが即ち園内研修と言えるのではと思います。日々の業務に追われ、なかなかまとまった時間が取れないとは思いますが、穏やかで温かなかわりが子どもの心の拠り所となり、自ら遊びをつくり出す主体的な姿へと導いていくものと思います。
- ・年長児の保護者として、これまでの園生活を振り返ると、子どもが自分の気持ちを言葉にし、自分で考えて行動できるようになったと成長をとでも感じています。保育者が子どもの気持ちを急かせず受け止め、必要な時に関わり見守るときは信じて待つ姿勢が子どもの安心感に繋がっているのだと思います。担任保育者に限らず、どの保育者も子どもの様子を理解し、園全体で見守ってくださっていることは数年通わせてきたからこそ感じる園の大きな魅力です。就学を控えた今、単に知識をつけるだけでなく、「自分は大丈夫」と思える土台を育てていただいたことに感謝しています。
- ・卒園児も自由に園に来られることで、今も自分の園と感じ日常にあり続けていることは、地域との関わり、連携ができていることと感じます。
- ・ブログを楽しみにしている保護者、遠方の祖父母もいる一方で、個人情報を守ることや保育者の負担軽減を考えることも必要になるので、どういった発信ができるのかを状況に合わせて考えて行けるとよいと思います。
- ・子どものケガは避けられないことだと思いますが、だからこそ起きてしまった時の原因究明と事故防止の対策をしっかり考えて安全を守ることが大切だと思います。

## 評価について

A	・十分できている	C	・取り組まれているが十分ではない
B	・できている	D	・できていない